「つや姫」栽培管理情報第５号

H26.8.19　農業技術センター技術普及部

気象、「つや姫」、病害虫の状況等

○気温は７月に入ってから平年より僅かに低く推移していましたが、７月第３半旬から平年並みから高くなり、８月に入るとやや低く推移しました。日照時間は平年並みからやや多く推移しましたが、８月に入ってからの 10 日間の日照時間は平年の 15.9%と著しく少なく平年を大きく下回りました。降水量は７月に平年より少なく、８月に入ると多い状況でした。

○普及展示ほ出穂期の葉色（SPAD 値）は 36.6 と昨年度の 35.8 より若干濃いです。

○病害虫防除所の病害虫発生予察情からクモヘリカメムシの発生が多いとありました。

■　当面の管理ポイント（8 月上旬～収穫まで）

□間断灌水の徹底　適正な水管理　　適期収穫

具体的な対策

□間断灌水の徹底　適正な水管理（間断灌水）　適期収穫

○登熟期間に曇天、雨天が続くと光合成が充分行えず、品質低下につながります。成生した養分や今までに蓄えた養分を効率よく籾に転流させるため間断潅水に努め、品質の低下を防ぎましょう。

○穂揃い期以降も、出穂後 30 日頃までは間断潅水を継続し、根の老化を防ぎ、登熟促進を図りましょう。

○灌水程度は、土壌表面に水がなくても、足跡に水がたまっている・土壌を踏むと湿り気がある程度までとし、それ以上湛水しないようにしましょう。

○長雨後は排水に努め、根へ酸素供給をするとともに、用水の入れ替えにより根の活力を高めましょう。

○早期落水は減収や、乳白粒等の発生を助長し、品質低下の原因となるので、間断灌水を続け、できるだけ収穫直前まで土壌の水分を保ちましょう。

○適期収穫に努めるとともに、降雨により籾水分が例年より高いと思われますので、収穫後はできるだけ早く乾燥機に張り込み通風し、籾の変質を防ぎましょう。

水稲作況試験調査結果

○「つや姫」移植後 80 日（農業技術センター作況試験ほ場）

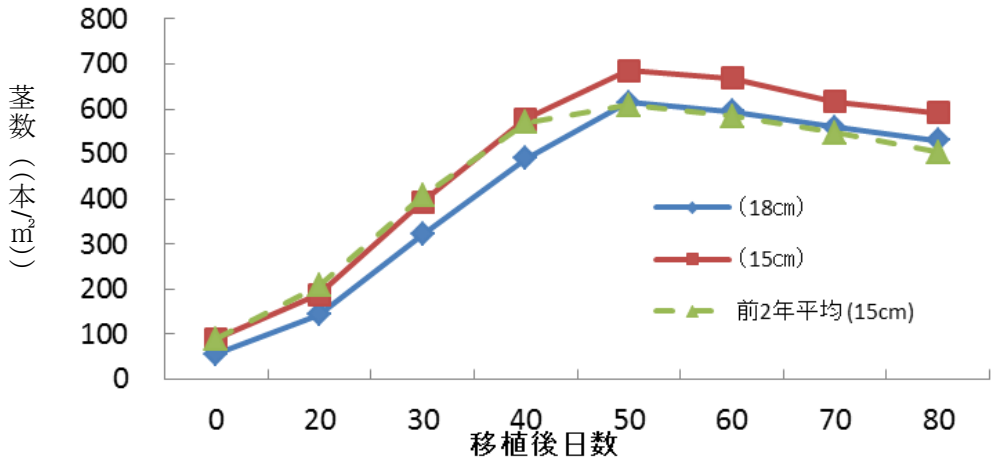

図１　茎数の推移

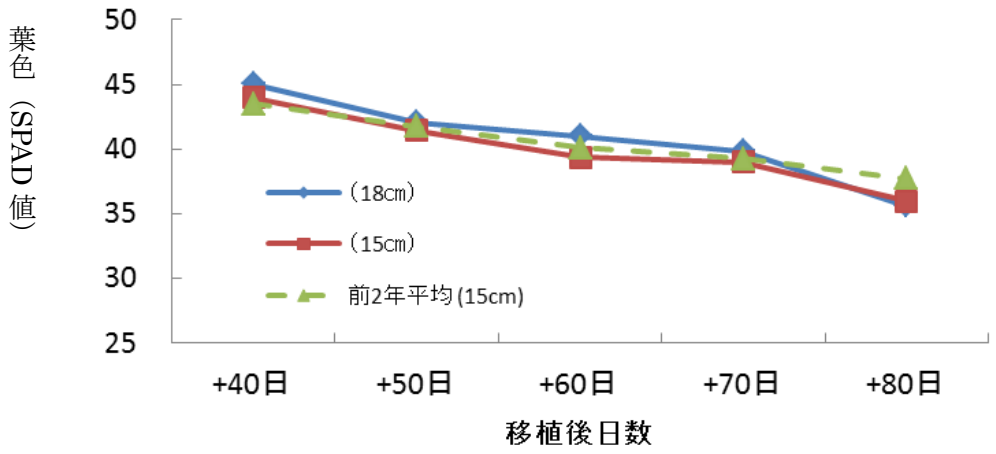

図２　葉色の推移